

さいたまチャイルドライン NEWS



2022年2月号

発行特定非営利活動法人さいたまチャイルドライン

コロナ禍で子どもたちとの つながりがピンチになっています

日頃よりさいたまチャイルドラインの活動に関心をお寄せいただきありがとうございます。
これまで活動が継続できたことは、みなさまのおかげです。心を込めてありがとうございます！
と言わせてください。

私たちさいたまチャイルドラインは、埼玉県や共同募金からの補助金、助成金をいただき活動していますが、それだけではとても事業運営費を賄うことはできず、みなさまから正・賛助会費、寄付金としてご支援いただき事業が成り立っています。昨年からは新たにブックオフさんの「キモチと。」で物品による寄付の形もスタートいたしました。

ですが、昨年度も今年度もコロナの影響からか、直接人に会うことができず、なかなか寄付金が集まらない状況が続いております。2021年度の事業費 5,117,047 円のうち、みなさまからのご支援である寄付金、正・賛助会費が約4割となっています。そして不足している3割が**3月末までにどうしても必要です。**

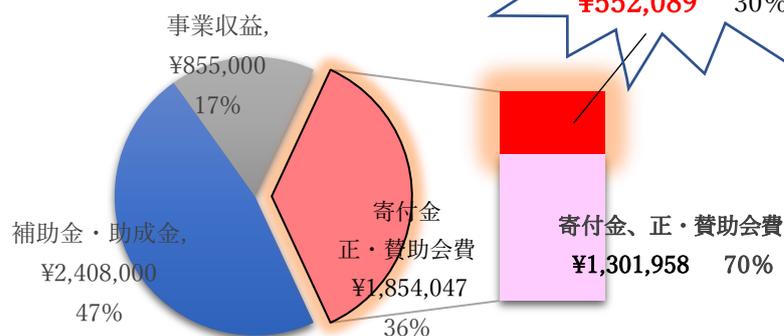
このままの状況が続けば、事業運営に大きな支障が出ることも懸念されます。

つきましては、**子どもに関心がある大人、また特に会社や企業など子どもの今についてお話をきいてくれそうな方をご紹介いただけないでしょうか。**

さいたまチャイルドラインの事業はみなさまのご支援に大きく支えられています。「子どもたちの心の居場所づくり」にご協力していただける方、企業がありましたら、事務局までお知らせください！

2021年度事業運営費

¥5,117,047



子どもたちの声

「2020 さいたまチャイルドライン報告書」より
同じような事例から編集したものです



コロナ禍で、ストレスや不安を抱えているのは、大人だけではありません。子どもたちにも大きな影響をもたらしています。内容はより深く重くなっている傾向が見られます。

子どもたちの声は切実です。懸命にコロナやストレス、理不尽な暴力等と戦っているのです。

お母さんが病院に勤めてる。
コロナに罹ると仕事ができなくなるから友達の家に行くのは禁止されてる。退屈だけどお母さんのために頑張るんだ。

学校でコロナの人が出たので
学校お休みになった。私は大丈夫かなあ。クラスにマスクしてない人いたんだ。

家から早く出ていきたい。
暴言吐かれて、逃げても追いかけてきて叩かれる。「お前にかけてやる金なんてない」って言われた。

ずっと周りの人に合わせてきた。家では親、学校では先生や友達。言いたいことは言わずに。でもなんだか疲れてしまって気力が出てこない。誰にどう伝えたらいいのですか？

自分はいなくなっただろうが
いいのかなって思います。将来の夢もない。学校も家にも居場所がない。楽しいこともない。もう死んでもいいかなって毎日考える。死んだら楽になるでしょ？

お父さんは私が小さいころから何かあれば怒鳴るし、腕をねじ上げられたり蹴られたりしてきた。虐待ですか？お母さんは見ている何も言わない。

グループの中でいつも一人
になってしまう。話しかければ答えてはくれるけど、それで終わり。この頃は話しかけることもできない。私がいけないのかな。話下手だし。

さらなるご支援をお願いいたします

ぜひ、下記振込先へご支援をお願いいたします。

□りそな銀行 朝霞台支店 普通 1431148
特定非営利活動法人さいたまチャイルドライン理事太田久美

□郵便振替 00150-0-23699
NPO 法人さいたまチャイルドライン



お振込みいただきましたらメールにて

ご一報いただけますと助かります

scl@jcom.home.ne.jp

※子どもの居場所づくりにご協力いただけそうな企業のご紹介も事務局にメールにてお願いします！



さいたまチャイルドライン 2021年の取り組み

今年チャレンジした活動を紹介します！

さいたまチャイルドラインをもっと知って欲しい！

子どもたちのためになにかできることがないだろうか？

そのようなスタッフたちの熱い思いがいろいろな形で実を結んでいます。

今まではなかなか一歩踏み出せずにいた人も、勇気をもってチャレンジすることにより、知らなかった自分に出会ったり、仲間の才能を発見したり。自分たちのことを知ってもらうために動くことで、さらなる可能性が見つかったり、時にはうまくいかなくて落ち込んだりしたことも…。そんな時も仲間と一緒にその気持ちを分かち合い、一緒に考えてアイデアを出しあって前に進もうとしてきました。今までがんばってきた活動に加えて、これからも私たちの活動を継続するため、子どもたちの声を受け止めることができるように私たちは挑戦を続けます。

ポスターを駅やお店に掲示 してもらいました

さいたまチャイルドラインを応援してくれるお店や病院、駅にお願いし、利用する子どもたちの目にとまるようにポスター掲示をしてもらいました。

Twitter を始めました

チャイルドラインに電話やチャットをしようか迷っている子どもたちに届くように発信を続けています。他のチャイルドラインとつながることもできました。

さいたまチャイルドライン Twitter

で検索してね！

県内のパネル展に参加 しました

さいたま市と朝霞市のパネル展に参加し、手作りパネルやポスター、パンフレットを展示しました。少しでも私たちの活動を知ってもらうためにすごいパワーが生まれました！

22期養成講座が 始まりました

今年度はチラシを例年よりも多く配布し、Facebookでの掲載もお願いしました。多くの熱意ある方々にお集まりいただき、スタッフ一同合っています！

メディアの取材を受けました

F M川口、NHKラジオ、東京新聞にさいたまチャイルドラインを取り上げていただきました。子どもたちに知ってもらうことと同じように大人にもチャイルドラインを知ってもらえますように。

スタッフの活動の理解を 深める努力をしました

自分たちの活動や仲間のがんばりが目で見えわかるように、メルマガの発信、掲示、レポートの作成を行いました。また仲間からのアイデアや意見を募集しました。

代表あいさつ

現在 22 期電話の受け手養成講座を開講している。一環で 1 月 15 日元毎日新聞記者の山寺香さんを迎え研修を行った。2014 年に川口市で起きた強盗殺人事件についてである。当時 17 歳の少年は母親から「殺してでも金を借りて来い」と言われ借金を断られ祖父母を殺し、現金 8 万円などを盗んだのである。このニュースはよく覚えている。当時の報道で幼児もいる親子が野宿していて…という記事に衝撃を受けた。

同日である。白岡市で 15 歳の少年が急性硬膜下血種で亡くなった。次々に出てくる後追い情報によると、「一家はネグレクト家庭として有名であった」「学校には 3~4 時間目に来ることが多かった。理由を聞くと、お父さんに給食食べてこいって言われてるから」「いつかこうなるんじゃないかと思っていた」等々。

白岡の事件は学校も見守っていたことは確かなようである。だが見守りだけで、私たちの常識を超えた親の存在や子どもの環境から、子どもを守り切れないことも確かである。とんでもない親だと非難することは簡単である。しかし、それで子どもの尊厳や命を守ることはできない。

子どもの人権・真っ当に生きる権利は憲法の「基本的人権」にも大人と同様に謳われていることだが、子どもの権利は薄氷の上にある。大人次第で薄くも厚くもなるのだと改めて感じた。

太田久美

コロナ感染に気をつけながら今年度の私たちは新しい取り組みにチャレンジしました。一人ひとりが自分にはなにができるか、子どもたちの声を受け止め続けるためにできることはないかを考え、行動した結果です。

新聞やニュースでコロナに翻弄されている子どもたちや生きることへの苦しさを訴える子どもの話を聞いた時、私たちは他人事とは感じず、心に痛みを感じます。このような時代だからこそ、子どもの気持ちに共感し、寄り添いたいと思う大人たちがさいたまチャイルドラインに集い、またさまざまな形で支えてくれていることに、とても心強さを感じます。大人でもこの不安定な世の中にストレスを抱えています。子どもたちの心も自分では気が付かないうちに不安や失望があふれているかもしれません。その気持ちを誰かに話せるような場所、誰かと話したいと思った時にだれかが話を聞いてくれる場所、子どもたちの心の居場所をこの先も守っていききたい。その想いが私たちをさいたまチャイルドラインの活動を続けさせるのでしょう。

子どもを取り巻く環境は急速に変化しています。電話から始まった子どもの声を聴くという活動は、スマホやパソコン、タブレットでも可能になりました。どのような手段でも子どもが安心して話せる場所をこの先も続けていけるように、皆さんの力を今後も貸してください。

鈴木愛

事務局よりお知らせ



お願い
します

いつもさいたまチャイルドラインの活動を応援していただき、本当にありがとうございます。

正会員、賛助会員、寄付者の皆さま、さいたまチャイルドライン最新情報、コロナ状況下における子どもたちの現状などをメールでお伝えします。**受信希望の方は事務局までメールアドレスをお知らせください。**メールはこちらまでお願いします。(QR コードでも読み取りできます)



scl@jcom.home.ne.jp

